

スポーツで世界と歴史を旅する

今年は、2月のミラノ・コルティナ冬季五輪につづいて、3月には野球の世界一決定戦、WBCがアメリカ、日本、プエルトリコで、6月にはサッカー・ワールドカップがアメリカ、カナダ、メキシコで開催されます。

10億人がリアルタイムで視聴するといわれているサッカーW杯の決勝を筆頭に、これほど多くの人々を、国境を越えて熱狂させている文化イベントは、スポーツの国際大会において他にありません。

そんなグローバルな文化に成長したスポーツですが、元々はというと、ある特定の国で生まれたローカルな文化でした。たとえば野球やサッカーの母国はどこかご存じでしょうか？そこに遡ってみることで、地球全体を一望してみましょう。国や地域ごとの違いも見えてきます。スポーツが「世界の窓」になってくれるはずです。

スポーツは、その国の文化や社会を映し出す「鏡」でもあります。この授業の後半では、マンガやアニメなども使いながら、日本のスポーツが、いつ、どんなふうに変化してきたのか、なぜそんな変化が起きたのか、といったことを外国との比較も交えながら、考えてみたいと思います。

この授業では、自分で考える、あるいは仲間とともに考える、ということを重視していますので、グループワークを中心に進め、自分で面白いと思う「問いと仮説」を作ってもらいます。興味がある方はぜひご参加ください。

坂上康博（放送大学客員教授、一橋大学名誉教授）